

CES2023 調査報告書
(サンプル)

2023年1月8日
OSS BroadNet Inc.

目次

1. 2023 年展示の全体傾向.....	3
2. Tech East (Central, North, West Hall)の風景	4
3. LVCC ループの風景.....	37
4. Tech West (Venetian EXPO, Hall A~D, G)の風景	40

1. 2023 年展示の全体傾向

2022 年と異なり、COVID-19 パンデミックのネガティブな影響がようやくほぼ解消されての展示である。2022 年の 5 割増しの床面積となった各会場では、展示内容もパンデミック対策の側面が色濃かった昨年迄から一変し、ポジティブな近未来像を提案する、本来の CES らしい展示が増えていた。

特に、全会場を通じて自動車関連展示の充実・深化が著しく、LVCC ループのドライバーとの雑談でも見解が一致したのだが、もはや CES が一昔前のモーターショーの様相を呈していた。従来の自動車産業界からは、BMW のキーノート登壇や、2021 年のニュースであった新生ステランティス（本部：オランダ）の展示等、ここ数年の GM に続く水準での積極的な意気込みを感じた。

一方で 2012 年以来の CES 復帰となった Microsoft の展示では、一番地味なのが Tech East Central Hall の X-Box 関連、一番派手なのが同 West Hall の車載ソフト・システム関連と、業界を問わず、集中すべきは自動車とばかりに、各社が自動車の周辺機器・ソフト・システム等の展示を強化している様子が目立った。

各社の展示方針も、一昔前の機能・性能等のカタログスペック中心の展示が減り、応用事例に基づき自社の製品・サービスを組み入れる形の展示が増えた。例えば、韓国の最大手通信事業者である SK テレコムによる省電力・AI ベースを標榜した「SAPEON」半導体チップシリーズの発表では、機能・性能面よりも、グリーンエネルギーや自動運転等、全体コンセプトを示しながらの応用例を中心とした展示への工夫が見られた。

VR/AR&ロボット関連は、敢えて皮肉な言い方をすれば、来場者に楽しい体感デモを最も提供し易い事もあり、相変わらずの大盛況だったが、一方では光学機器日本メーカー大手のニコンがロボットやドローンに搭載した形での高精細カメラを備えた自律型ロボット技術を発表するなど、従来のエンタメから派生した応用技術と、現実的・実践的な企業・公共向けの基礎技術とに、方向性が明確に二分化している印象を受けた。

AI&ロボット関連も、2019 年に多く見られた愛玩用や萌え表情など、市場性に疑問を感じる内容が減り、草刈りに加えて除雪作業も効率的に行える Yarbo（アメリカ）の除雪ロボット”Yarbo”や、水中を自動走行しながらプール内壁を掃除する Aiper（中国）のプール掃除ロボット”Seagull”シリーズ、Noras（ポルトガル）の海水浴場等ライフガードロボット”U Safe”等、実用性向上と多様化の双方共に、現実的な方向性へと変わりつつある印象を受けた。

ユーレカパークは例年と変わらず、多くのスタートアップの展示、各国パビリオンの展示、及び、Travel 等 CES には新参な分野の展示であった。

Tech West Venetian Expo の展示では、Amazon が一室を借り切ったのユースケース展示を行っていた事、CES のアワード受賞製品のショーケースが集められた区画の内容が濃い事が興味深かった。特にメディア関係者には、ショーケースは各社の発表する新製品を効率的にまとまった形で把握できるためお勧めである。

Tech East の各ホール間移動に便利な LVCC ループも、一乗の価値がある。ループ内の白壁のライトアップ照明が走行中に色が変わるのが面白い。多数の車が効率よく運行しているため、利用者多数にもかかわらず、1 分強程度の待ち時間で乗車が可能であった。真に感じるべきは高グレードなテスラ車への試乗やガルウィングドアではなく、運行効率の高さであろう。